

SGH 海外フィールドワーク 2017 マレーシア・シンガポールコース

茨城県立土浦第一高等学校

- 1 目的 (1)現地大学と連携したフィールドワーク, 講演, 文化交流, 現地高校と連携したアカデミックワークショップ, 文化交流, 現地企業と連携したフィールドワーク等により, 生徒の課題研究の進展及び国際意識を身につける。
(2)将来, 国際的に働いたり, グローバルビジネスの起業を考えたりする際に不可欠な人的ネットワーク構築術を身につける。
- 2 日程 平成 29 年(2017 年) 8月 15 日(火)～22 日(火)
- 3 方面 マレーシア・クアラルンプール及びシンガポール
- 4 参加者 2年生9名 引率2名 添乗員1名

5 選定理由 【マレーシア・シンガポール方面を選定する理由】

(1)交流の優位性

時差がほとんどなくテレビ会議システムでの交流に支障がないこと, 親日的なこと, シンガポールでは本校と同じ進学校が多いことなどのため, 学校間交流に適している。

(2)国としての利点

マレーシアフィールドワークの主目的はマレーシア工科大学の協力によるマレーシア国内でのフィールドワークである。生徒はそこでインタビュー調査や農村景観調査等と実施する。その中で, マレーシアで栽培された作物の多くがシンガポールへ輸出されている事実を知る。シンガポールは歴史的に中継貿易で栄え, 独立から 51 年を経た現在でもマレーシアとの農産物取引は盛んである。さらに水資源についてもマレーシアに依存する状態が続いている。この事実に基づき, 生徒がマレーシアの生物資源や水資源が隣国の先進国にどのような形で移転され, どのように利用されているのかを調査することは, 本校の標榜する「生物資源を活かしたビジネス」を深化させる上で意義がある。つまり, 途上国のマレーシア対先進国のシンガポール, 生物資源の供給地としてのマレーシア対その消費地としてのシンガポールという構図から, 生徒は両国でフィールドワークを実施することで課題研究を一層, 深化・発展させることができると考えるためである。

【マレーシア工科大学を受入先とする高大連携の理由】

(1)連携先としての優位性

筑波大学が設立に関わった「マレーシア日本国際工学院(MJIIT)」の教員として, 常に筑波大学教員が派遣されており, 本校との連携に積極的であるため。

(2)研究分野での親和性

MJIITの先生方や学生との研究分野と重なるような研究(特に生物資源やビジネス化)を本校側でも行っており, また本校の生徒が研究で取り組もうとしている内容やテーマが, マレーシアに関するもの, あるいはMJIITの先生方の研究分野と重なるため。

(3)マレーシアの国としての利点

- ・地政学的…アジア圏に属し, 治安も安定し, 多民族国家であること。
- ・経済面…経済成長が著しく, 今後世界のビジネスを牽引するであろうイスラム圏にあること。

6 行程の詳細, 生徒感想, 写真

日次	日程	地名	現地時間	交通機関	日程	朝	昼	夜
1	8/15 (火)	成田空港 クアラルンプール	8:30 11:20 17:45	JL723 専用車 (ガイド)	成田空港集合後、チェックイン、出国手続 空路、クアラルンプールへ 到着後、専用車で市内レストランで夕食、その後、ホテル (UTM) へ ＜クアラルンプール・UTM泊＞	－	機内	レストラン
2	8/16 (水)	クアラルンプール 滞在	終日	公共交通機関	午前中マレーシア工科大学でワークショップ等 午後はグループごとに市内フィールドワーク (昼食は大学でbuffet、夕食は各自) ＜クアラルンプール・UTM泊＞	ホテル	各自	各自
3	8/17 (木)	クアラルンプール 滞在	終日 夕方	公共交通機関	午前中：グループごとに市内フィールドワーク 午後：マレーシア工科大学にてプレゼン (昼食：大学でbuffet) 夕食は学校隣接のレストランで ＜クアラルンプール・UTM泊＞	ホテル	各自	レストラン
4	8/18 (金)	クアラルンプール 滞在	9:00 19:00	専用車 (ガイド)	午前：企業訪問 (KL市内または周辺・未定) 昼食は市内レストランにて 午後：企業または農園訪問 (KL市内または周辺・未定) 夕食は市内レストランにて ホテル着 ＜クアラルンプール・UTM泊＞	ホテル	レストラン	レストラン
5	8/19 (土)	クアラルンプール アエヒタム村	8:00	専用車 (ガイド)	バスにてアエヒタム村へ 到着後、ウェルカムパーティー&昼食 終了後、各家庭へ (2～3名1室) ※夕食 各家庭にて ＜生徒 ホームステイ 先生 近隣ホテル (シャレー) 泊＞	ホテル	ホームステイ	ホームステイ
6	8/20 (日)	アエヒタム村 ジョホールバル シンガポール	8:30 9:30 12:00 13:00 16:30 17:00 19:00 20:30	専用車 (ガイド) 専用車または徒歩	ホームステイ先にて朝食 アグロツアー (農園視察～9:30) 村発、バスにてジョホールバルへ *****通関・シンガポール入国***** シンガポールにて昼食 ホテル到着後、生徒は市内班別研修 生徒集合・チェックイン ホテル発、ホーカーにて夕食 (各自払い) マリーナベイサンズ周辺にて研修 ホテル着 ＜シンガポール・アマラホテル泊＞	ホームステイ	レストラン	ホーカー (各自)
7	8/21 (月)	シンガポール	8:30 12:00 13:00 14:45 15:30 17:30 19:00 21:50	徒歩・公共交通機関 専用車 JL36	ホテルチェックアウト、各自班別研修スタート 昼食 (オーチャード近辺、指定場所に集合。各自払い) 投資家への起業プランプレゼンテーション (～14:30) 研修終了後、MOEランゲージセンターへ MOEランゲージセンターにて学校交流 (～17:00) 市内レストランにて夕食 シンガポール国際空港到着 空路、羽田へ ＜機中泊＞	ホテル	各自	レストラン
8	8/22 (火)	羽田空港	5:50		到着後、入国・通関後、解散	機内	－	－

【1日目】8/15 出国, クアラルンプールへ

〔生徒感想〕

- ・マレーシアは発展途上国というイメージが強かったので、クアラルンプールの都会的な町並みに驚いた。
- ・日本のコンビニエンスストアを何軒も見かけた。三井アウトレットパーク、伊勢丹もあり、マレーシアは日本のことが大好きだと感じた。
- ・今日学んだことは、支払う金額によってサービスに差をつけられるということ。飛行機のビジネスクラスとエコノミークラスでは、設備から食事までかなり差があった。お金を高く出せばちょっとした差がつくなど、起業アイデアに活用してみようと思う。
- ・マレーシアは多民族で、お互いに意思を伝え合うためにマレー語と英語を話せるのが当たり前。そしてお互い文化や宗教、習慣を認め合っているのはすごいと感じた。自分も多くの民族の人と触れ合う機会をもちたい。



成田空港に現地集合



女子7名, 男子2名の計9名で出発

【2日目】8/16 マレーシア工科大学で講義, ワークショップ, 市内インタビュー調査

〔生徒感想〕

- ・大学教授の話しでは、いろんなものの見方が必要だと言うことや、国際人であることが大切だと教えてもらい、決心すればできるとおっしゃられたことが一番心に残った。
- ・インタビューを通して、より多く情報をもっているのは10～20代の若者ということがわかった。
- ・市内でインタビューした際、日本語を話せる人が予想以上に多いことに驚いた。
- ・めん類が主食で、辛いのが多いことに、改めて異国に来たのだなと感じた。
- ・日本では見ない食材ばかりで、新鮮だった。作り方も含め、自分のプロジェクトに多くの選択肢があると感じた。
- ・どの学生も英語を話すことができている、マレーシアの国際性を感じた。自分も6年間英語を学ぶのだから、もう少し流ちょうに話したいと思う。
- ・マレーシアの街頭調査で分かったのは、日本人もマレーシア人もバスに対する不満の内容は同じだった。これは意外だったので、アプリをグローバルに展開してもニーズがあると思った。



マレーシア工科大学



学生さんにキャンパスを案内してもらう



クアラルンプール市内でのフィールドワーク



食材店での市場調査

【3日目】8/17 市内インタビュー調査, マレーシア工科大学で調査結果プレゼン

[生徒感想]

- ・ホテル前でのインタビューでは、ほとんどの人が高級ホテルには満足していることがわかった。しかし従業員は多忙そうで、もっと余裕を持って仕事してほしいというホテル客の要望に応えるためには、人工知能の導入が有効と改めて思った。
- ・フィールドワークやその前の行動を通して、現段階で甘納豆デザートがどういう反応を得るのか分かったし、課題やこれからしないといけないことをはっきりさせることができた。
- ・他言語の人と話すことは大変楽しいものであった。文化の異なるもの同士では必ず何か疑問が出てくるので、そこで会話を発展させ、コミュニケーションをとるのも良いと感じた。
- ・英語力と言うより、会話力、そのために知識を持っていなければならないと感じた。相手国の知識と自国の知識が必要だと思った。今日話した学生さんは日本のアイドルを詳しく知っていてとても話が弾んだ。



大学での発表準備



プレゼン



聴衆は現地の大学教員と学生さん



お世話になりました

【4日目】8/18 みずほ銀行訪問, セントラルマーケット自由研修, モスク訪問

[生徒感想]

- ・みずほ銀行の方の話しが心に響いた。常にオープンマインドでいることや、日本人がいない環境を楽しめているという事がすごいなと思い、海外で働いてみたいと思った。
- ・みずほ銀行で働いている人の話を聴いて、世界で働く人って憧れると思う。楽しいことの裏目には苦労もあるといっていたけれど、その通りだと思った。だから私は今とりあえず課題を怠らずに、勉強を真面目にしようと思う。そして私も将来は英語をツールにして働きたい。
- ・セントラルマーケットでは初めて値切るという行動をとった。日本ではできない新鮮な体験で、文化の多様性を、身をもって感じた。
- ・調理をフードコートで見たが、多様な物だった。日本ではしない面白い調理法がマレーシアにあると感じた。
- ・グローバル社会では、英語が必要というより、自分が周囲の環境を受け入れ、自分の意見をしっかり伝えられることが大切だなと思った。
- ・モスクでは偶像崇拝が禁止しているのに対して、寺院は清清しく偶像が多く、そんな違った宗教観が一つの国にあるのは素晴らしいと思った。違いを認め、違いを楽しめるようになりたいと思った。
- ・全く異なる宗教が一つの町に共存することは、かなり特殊なことだと感じた。否応なしにグローバル化する現代では、お互い折り合いをつけることが大切だと思った。



みずほ銀行マレーシアを訪問



会社の概要や現地での経営について伺う



お世話になりました



宿では毎夜、遅くまでディスカッション

【5日目】8/19 アエヒタム村にて歓迎行事のあと、ホームステイ

〔生徒感想〕

- ・ホームステイ先で、民族衣装を着せてくれた。生地が薄くて、頭に巻く頭巾には目が出せる穴があった。
- ・現地の結婚式に参加できたのはとても貴重な体験だった。日本は白や赤色が結婚式に用いられるが、マレーシアは青色だった。
- ・ホストファミリーと話すときに、母国について私に話してくれたのに対して、自分が日本について上手く話せないことに驚いた。もっと日本を知ろうと思った。
- ・難しいことは考えずにオープンマインドでいることを心がけたら、ホストファミリーとも仲良くやれた。プロジェクトにおいてもさまざまな情報にオープンでいたい。
- ・私はマレー語でありがとうと伝えたら、相手が日本語でありがとうと言ってきて嬉しかった。これからはさまざまな国の「あいさつ」をその国の言葉でできるようにしたいと思った。
- ・ホームステイ先は村なのにFacebookをやっている人が多いので、それによって海外の人とつながれると思った。
- ・ホームステイのとき、上手く話すことよりもたくさん言葉を発すること、相手に伝えようとするものの重要性について身をもって学ぶことができた。



農園見学 油やしのプランテーション



携帯端末も利用して聞きたいことを聞く



ホームステイ



生徒もムスリムの服装を体験



マレーシアの農村生活をホスト家族とともに体験



村の結婚式に飛び入り参列

【6日目】8/20 シンガポール入国, グループ別市内研修

ジョホールで通関・手荷物検査を行い、バスでコーズウェイを通過し、シンガポールに入国した。その後は、日星の関係を中心に、展示を見学した。日本との展示方法の違いについても学ぶことができた。再開発の進むマリーナ地区で、観光資源開発の状況及び水資源政策を端的に理解できる場所としてシンガポールリバーの見学を行った。植物園では、植物および水生生物の観察を行った。その後、4名は目的地までバスを乗り継いで到達するプロジェクトに取り組んだ。路線図・地図の情報を取捨選択し、経路を計画した。地域の方に声をかけて質問するなどし、制限時間内に到着することができた。経路が決まってからは、スムーズで快適なバスの運行状況や当地の交通施策の先進性を実感した。ERP の設置状況についても見学した。3名は鮮食品を扱うウェットマーケットを見学し、現地の食材の流通についての知見を得た。その後全員で、 ニーアンシティ内の日系大型書店を見学した。

【生徒感想】

- ・国境を陸路で越えるのがとても新鮮だった。
- ・夜景がキレイだったで、高級ホテルに泊まれないお客さんのために AI を利用して夜景を再現するとすごいビジネスになるかなと思った。
- ・シンガポールでは珍しいフルーツというよりも、日本にもあるフルーツを日本にない形で売っている様子が見られた。そういった面から、どれだけ他との差異をつけられるかがビジネスには大事だと思った。



シンガポールでも自力で市内調査



マリーナ地区では自由研修



マーライオン前でしばしの観光タイム



マリーナベイサンズ展望台から町の発展を感じる

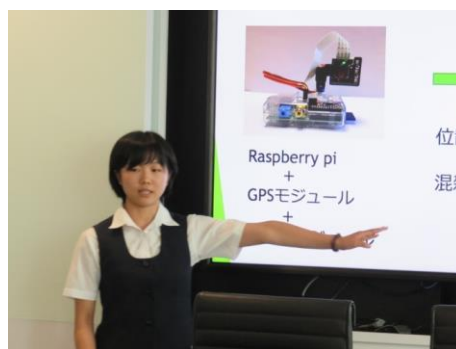
今回の研修の総まとめとして、各グループの研究をビジネスプランの形にまとめ、現地のファンド会社にてプレゼンテーションを行った。プレゼンをすることでこれまでの調査内容を総合し、フィードバックを即時的にもらうことでさらに思考が深まった。聞き手になってくださった現地のビジネスマンの方からは、「世界が複雑化する中では、チームやグループでの力が重要である。多様な考え方を尊重し、活かすことで生き残ることができる。」「世の中の雰囲気にならされず、科学的な視点から、問題の本質や原因を、定量的かつ定性的に正しく捉えなおす批判的な思考力が重要だ。」という励ましの言葉をいただいた。生徒からは、「グローバル化が進んだ世界で生き残るには、新しい発想を生み出すだけの知識、日頃から問題意識を持ち考えて生きることが重要で、ボーッとしては世界において行かれると思った。」という感想があった。

【生徒感想】

- ・起業家プレゼンのとき、実際にグローバルな現場で働いている人達から、自分たちだけでは気づかないような点を指摘してもらえたのが良かった。
- ・自分でできないことは素直に言って、他の人に助けてもらうことも大事だと分かった。プロジェクトで高校生ではどうしても分からないことやできないことを認めて、大人に頼っていいと思った。
- ・初めて海外の高校生と交流することができて、短時間だったけれども、もっともっと多くの国の方と交流できたらいいなと思った。



シンガポールの投資会社でのビジネスプラン発表



現地での調査内容をもとにした発表



MOELC 訪問



研究発表をする



マレーシアでの調査内容も含めて発表



土浦一高を紹介する



シンガポールを出国



羽田空港での解散式 修了証を受け取る

7 アンケート結果

(1) 自分が当初目標にしたことと、その目標への自己達成度

- ・自ら考えて積極的に行動する 70%
- ・マレーシア・シンガポールにおける食文化の違いや共通点を知り、プロジェクトを改善する 60%
- ・異文化の考え方を知る 120%
- ・海外の人と英語で話し、彼らの生活について知る 80%
- ・現地の人とたくさん話して、自分の国と現地の国との違いを肌で実感する 51%
- ・日本で見られない食べ物を見つける 70%
- ・甘納豆に対する現地の人の反応を年齢、性別ごとに細かく調べ、研究データにする 80%
- ・時間を無駄にせず、楽しみながらもしっかり今後活かせるような経験にする 80%

(2) 印象に残っていること、学んだこと、自分が変容したと思うこと

- ・多民族国家なので、2カ国語を話せるのは当たり前で、3〜4カ国語を話せる方も大勢いたことが印象的だった。
- ・現地の人から日本語で「ありがとう」と言ってくれて、嬉しかった。外国人が日本に来たときは、その国の言語で挨拶して迎え入れてあげることが大事で、礼儀だと学んだ。
- ・両国とも多民族で構成された国家で、隣り合っているのに、経済の差異が大きかったことに驚いた。
- ・現地の人が多くが日本文化に興味があり、たくさん聞かれたが、意外と答えられないことが多かった。外国を学ぶだけでなく、まずは自国のことを知らないと行けないと思った。
- ・異文化を多く受け入れられるようになった。多くの文化に触れることができて貴重な体験になった。
- ・イスラム文化の国に初めて渡航し、教科書の中だった異文化を実際に体験することで、何かを信じるという行為が人格を形成している国もあることを知った。異文化を表面的な理解から本質的理解に変容した。
- ・グローバル化が進む社会を生きるにあたって、もっと勉強して海外でも通じる人材になりたいという意識、焦りを感じるようになりました。
- ・行く前よりも話す量が増えた。一緒に参加したメンバーとも仲良くなることができた。性格が明るくなり、物事を前向きに考えることができるようになった。多様な価値観を受け入れられるオープンマインドな人になりたい。
- ・人前でプレゼンをすることに慣れて、最終日の投資家の前で説明するときには緊張せずできた気がする。
- ・世界で活躍することが本当にキラキラして見えた。
- ・多民族国家と聞いて、民族ごとに固まって生活しているかと思っていたが、どの民族も互いの宗教や文化を尊重しながら同じ場所、食事をしていてグローバル化という者は本当なのだったと思った。
- ・この一週間の研修を通し、勉強する目的がはっきりし、自分で勉強したいと思えるようになった。この気持ちを忘れず、これからたくさん勉強したい。